

アオヤンマ

Aeschnophlebia longistigma Selys
トンボ目・ヤンマ科

【福井県カテゴリー】 新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧 【環境省カテゴリー】 準絶滅危惧

選定理由

既知の産地で安定して確認されるが、外来種の侵入、生息環境が埋め立てや開発等人為的影響を受けやすく生息環境の悪化、個体数減少が懸念される。

種の特徴

体長 66～79 mm。腹部にくびれがなく寸胴、全身が鮮やかな黄緑色の中型のヤンマ。5～7月に出現。空間に網を張る造網性のクモを狩り、捕食する習性がある。平地～丘陵地の抽水植物の繁茂したやや水深のある溜池、湿地に生息する。

分 布

北海道、本州、四国、九州に分布するが地域により減少が著しい。県内ではあわら市・北潟湖周辺、若狭町・三方湖周辺、敦賀市中池見湿地、坂井市三国町で確認されている。

生息を脅かす要因

ウシガエル、アメリカザリガニ、ブラックバス等肉食外来種の侵入、あわら市の生息地では溜池改修計画があり植生等に配慮した工法、外来種駆除、外来魚が持ち込まれないような対策が必要である。

参考文献 和田 (2015)、尾園ら (2012)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○	○	○	○					○		○			○	○

カラカネトンボ

Cordulia amurensis Selys
トンボ目・エゾトンボ科

【福井県カテゴリー】 新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧 【環境省カテゴリー】 —

選定理由

生息地が非常に限られる。今回の調査で新たな生息地が確認されたが、それを含めても県内の生息地は4か所(3メッシュ)と限られており、生息基盤は脆弱である。

種の特徴

全身が鈍い金属光沢のある暗緑色(唐金色)をした中型のトンボ。体長はオス 44～54 mm、メス 42～50 mm。山地の樹林に囲まれた池沼に生息し、高原の池塘でみられることもある。幼虫期間 2～3年程度(2～3年1世代)、幼虫越冬。成虫は6～8月に出現する。

分 布

北海道と本州の東北・上信越・北陸の山岳地帯に生息し、福井県が分布南西限。県内では大野市赤池、小池、刈込池で生息が知られていたが、今回勝山市北谷町でも見つかった。

生息を脅かす要因

分布が限られているため、各生息地の保全が必要不可欠である。登山ブームで、いずれの生息地も登山客が増加しており、生息環境の悪化が懸念される。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、尾園ら (2012)、杉村ら (1999)、和田・和田 (2006)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

トラフトンボ

Epiptera marginata (Selys)
トンボ目・エゾトンボ科

【福井県カテゴリー】 新：県域準絶滅危惧 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類 【環境省カテゴリー】 —

選定理由

前回の調査時に比べて確認メッシュが増加し、新たに嶺南地方でも確認されたことからランクダウン。ただし、本種が多数生息する主要な生息地ではウシガエルやアメリカザリガニなど外来種が侵入しており、生存基盤は安定しているとは言えない。

種の特徴

体長オス 50～56 mm、メス 50～58 mm。黒色の地に橙褐色の斑紋がある。体色、斑紋とも雌雄でほとんど差がなく、成熟してもあまり変わらない。平地～丘陵地の抽水植物や浮葉植物の繁茂する池沼に生息する。成虫は4月下旬～6月初旬に出現する。

分 布

本州～九州にやや局所的に分布。県内では北潟湖周辺や三国町でこれまで記録があったが、今回の調査では福井市、若狭町でも新たな産地が見つかった。

生息を脅かす要因

北潟湖周辺の生息地では多くの個体が確認されているが、ウシガエルやアメリカザリガニ等の外来種が増加しており、その捕食圧や間接的な影響が懸念される。かつて記録のあった福良池ではコイ、ブラックバス等が増加しており、今回生息を確認することができなかった。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、尾園ら (2012)、杉村ら (1999)、和田・和田 (2006)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○										○		○				○